

研究主題

子どもたちの生活や学習の基盤としての食に関する指導を充実し、
生きる力を育むための研究
給食委員会

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

食は人間が生きていく上での基本的な営みであり、健全な食生活は健康な生活を送るために欠かせないものである。子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくための生活や学習の基盤である。

本来、正しい食習慣の形成は、家庭が中心となって担うものである。しかし、食の多様化が進む中で、家庭において十分な知識に基づく指導を行うことが困難になりつつあるばかりか、保護者自身が望ましい食生活を実践できていない場合もある。こうした状況を踏まえると、学校・家庭・地域が協働し、次代を担う子どもたちが望ましい食習慣を形成し、生涯にわたって健やかに生き抜くための基礎を培うことができるよう実践を進めていくことが大切である。

そこで、本委員会では、以下についての調査研究を行い、食に関する指導のさらなる充実を目指したいと考えた。

- 食に関する指導を通して、生涯にわたって健やかに生きる基礎を身に付けさせるための学校の取り組み
- 食に関する指導を通して、豊かな人間性を育むための学校の取り組み
- 家庭や地域の関係機関・団体と連携して、効果的に食に関する指導を進めていくための学校の取り組み

(2) 研究の方法

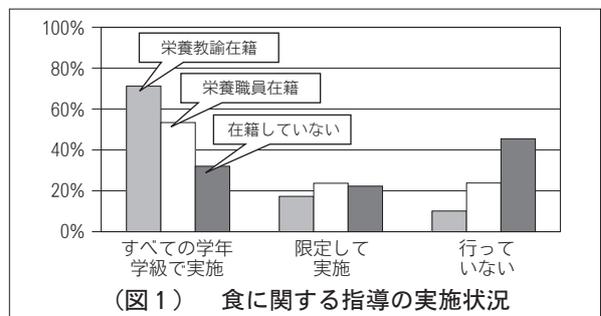
- ア 調査対象 180校の校長（抽出）
- イ 調査方法 質問紙法（7月に実施）

2 調査研究内容と考察

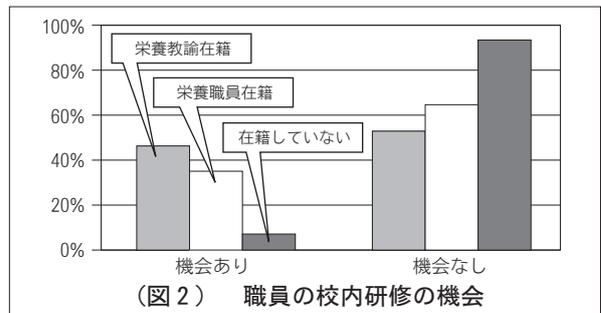
(1) 食に関する指導について

食に関する指導を通じて、生涯にわたって健やかに生きる力の基礎を身に付けさせるためには、児童生徒の発達段階に即した指導の全体計画や学年ごとの実践計画が必要である。全体計画を作成している学校の割合は少しずつ高くなってきているが、実践計画の作成はまだまだ進んでいない。

さらに、1単位時間の全てを使って食に関する指導を行っている学校の割合は、(図1)の通りであり、栄養教諭・学校栄養職員が在籍していない学校では、約4割の学校で行われていないことも明らかとなった。



食に関する内容についての教職員の研修の機会については、(図2)の通りである。

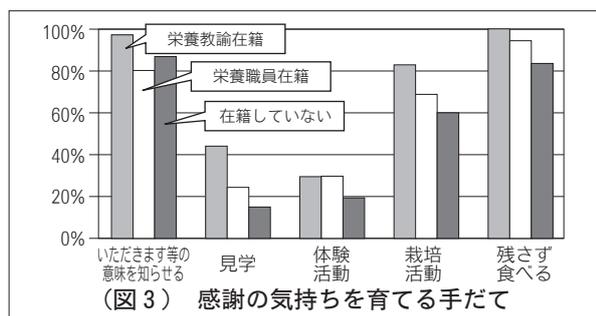


この結果から、校内研修の機会を設けている学校は、全体で約3割にとどまってい

ることが分かった。学校教育のいろいろな場面で食に関する指導を推進していくためにも、栄養教諭・学校栄養職員と連携を図りながら、教員一人一人が食についての理解を深め、指導内容を共有し、自信をもって指導できるよう研修の機会を充実させる必要がある。

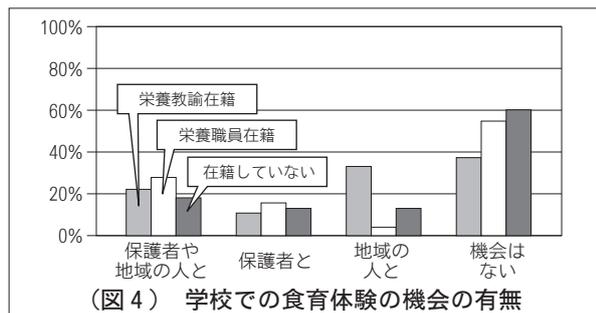
(2) 豊かな人間性を育む指導について

「食に関わる人への感謝の気持ち」や「命をいただいている」という気持ちをもたせるための指導の手だては(図3)の通りである。



多くの学校で、残さず食べるように働き掛けたり、「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知らせたりして、豊かな心を育む取り組みを行っている。

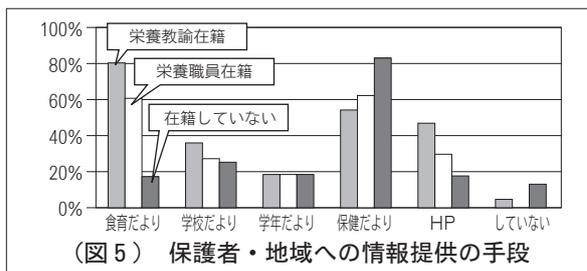
保護者や地域の人とともに「体験を通して学ぶ機会」を設定している学校は、(図4)の通りである。今後の広がりを期待したい。



さらに、給食の食べ残しを少なくするため、次のような工夫をしていることも分かった。

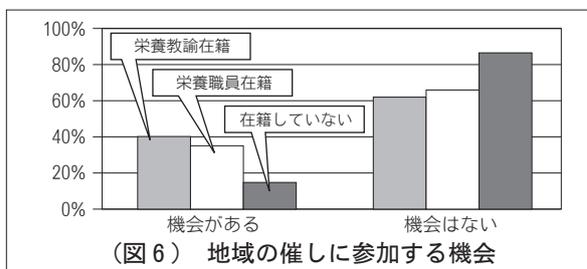
- ・ 残さず食べようキャンペーン
- ・ ポスター、標語等の作成による啓発活動
- ・ 食べ残しゼロになるとヘルス貯金にカウント、500パワーたまると表彰
- ・ 給食時間を「パクパク時間」と「モグモグ時間」に分けて指導

(3) 家庭や地域の関係機関・団体との連携



食習慣や生活習慣の改善には、保護者・家庭の協力は不可欠であり、その必要性を保護者により強く意識してもらうことが重要である。そのためには、学校は様々な手段を講じ、強く働き掛けをし、訴えることが大切である。しかし、(図5)にあるように、働き掛けをしていない学校が2割程度あり、課題が残る。様々な手だてを使って、家庭への働き掛けを行い、日常的実践力を高めることが必要である。

地域と連携し、地域全体で食育を進めていくことも大切である。地域で開催される食に関する催しへの子どもの参加機会については、(図6)の通りである。



学校と地域・行政が互いに開催情報を共有し、連携を強化していくことが大切である。

3 まとめ

食に関する指導の充実が急務である。今回の調査結果を踏まえ、本委員会としては以下の実現を図ることを提言としたい。

- 栄養教諭の配置拡大と学校栄養職員の定数改善
- 食に関する知識の習得など研修の機会の設定、全職員で指導できる体制の確立
- 学んだ知識を自分の生活習慣に生かすことができるようにするための手だての工夫
- 行政や地域が行う食に関する行事との連携